



閑

大阪外国語大学グリークラブ 第37回定期演奏会

1993年12月11日(土)

開場 17:30 開演 18:00

箕面文化センター8F大会議室

Gaigo Will Shine Tonight

Gaigo will shine tonight

Gaigo will shine!

Gaigo will shine tonight

all down the line!

Gaigo will shine tonight

Don't they look fine!

When the sun goes down

and the moon comes up

Gaigo will shine!

Varsity (大阪外国语大学学生歌)

Varsity! Varsity!

Osaka Gaikokugo Daigaku!

Praise to thee we sing,

Praise to thee our alma mater

U.Rah Rah!

Osaka Gaidai!

《大阪外国语大学学歌》

世界をこめし戦雲ようやくはれて

東の空に暁の明星ひとつ

これぞ大阪外国语大学

建てよ建てよ平和の旗

叫べ叫べ愛の言葉

輝かせ文化の光

北シベリヤの氷とざす野より

みなみ南洋の浪かすむ涯際

わが健児らの活動の天地

建てよ建てよ平和の旗

叫べ叫べ愛の言葉

輝かせ文化の光

《定期演奏会によせて》

音楽の表現方法、伝達方法を教え、研究しているうち、その様な抹葉のことに関係なく、人間の営みとしての音楽創りに出会い、教えられ、感動することがある。

長年、多人数による男声合唱独特の響きに馴れ親しんできた団員たちであるが、今年はいわば、ダブル・クアルテットで、より精緻な重唱の創造に挑んでいる。

全力で駆けてきた日本が、世界の中での位置を確認している今日、日本の叙情と、世界の詩曲を対置させたプログラム選曲も嬉しい。

ヴォイス・トレイナー 林 誠（大阪音楽大学教授）

第37回定期演奏会の開催おめでとう。

4月には部員の数がさらに少なくなつて、演奏会ができなくなるのではないかと心配しましたが、きょう開催できるようになったのはなによりのことです。日頃の練習の成果をあのチームワークの良さの中で十分に發揮することのできる演奏会となることを、こころから祈ります。今宵も、外大グリーの伝統である「素朴な荒削りさ」と「巧みな企画力」と「外国语のそれらしさ」を、十二分に見せつけてほしいと思います。自ら感動し、そしてわれわれを感動させて下さい、喜びを分かち合い、分かち与えて下さい。

グリークラブ顧問 高田 博行（ドイツ語学科助教授）

PROGRAM

Gai go Will Shine Tonight : Varsity

(大阪外国语大学学生歌)

大阪外国语大学学歌

I 日本のうた

この道

砂山

あわて床屋

からたちの花

あかとんぼ

作詞 北原白秋 三木露風

作曲 山田耕筰 中山晋平

II 男声合唱組曲「若しもかの星に」

作詞 百田宗治

若しもかの星に

作曲 多田武彦

光

樹のぼり

母の夢

海景

遠いところで子供達が歌つてゐる

III 黒人靈歌集 (Negro Spirituals)

Go Tell It On The Mountain

Little Innocent Lamb

Were You There

Kum Ba Yah

Swing Low Sweet Chariot

I Couldn't Hear Nobody Pray

Wade In De Water

Ride the Chariot

指揮 梶間貴志

《ごあいさつ》

本日は、お忙しいところを、大阪外国语大学グリークラブ第37回定期演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

本年度、我が団は、「部員の減少」という難題に直面、技術面においても運営面においても、厳しい一年となりました。しかし、その状況は、部員の歌に対する思いをより強め、部員がより純粹な形で合唱を楽しめるようにしたとも思われます。本日は、活動の成果を皆様の前に示すことで、大阪外国语大学グリークラブの合唱の魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

最後に、当演奏会の開催にあたり、ご援助、ご指導頂きました諸先生方、O Bの方々、関係者各位に心よりお礼申し上げます。

大阪外国语大学グリークラブ部長 福田裕之

1st Stage 日本のうた

今宵、第1ステージは、だれもが耳になじみのある日本の歌曲を集めてみました。今日取り上げる作曲家、山田耕筰と中山晋平はともに、明治・大正を代表する作曲家であります。彼らの曲調はまったく対照的なものです。山田耕筰は、主に楽劇・歌劇を作曲しており、日本の交響楽団の基礎をつくりあげました。

「からたちの花」「赤とんぼ」といった歌曲は一般の人々ばかりでなく、多くの音楽家（となる人々）をも魅了しました。一方、中山晋平は、「カチューシャの歌」「東京行進曲」などに代表されるような流行歌、また「証城寺の狸ばやし」などの童謡を作曲し、大衆に親しまれました。

音楽的に見れば相対的な彼らの曲ですが、共通していることは、現代の日本人のあいだでも広く支持され続けている、ということではないでしょうか。なぜなら、それは二人とも日本の心の原点を表現しているからだ、と思います。

2nd Stage 男声合唱組曲「若しもかの星に」

組曲「若しもかの星に」は、昭和53年に世に出た、多田武彦氏の作品の中でも比較的新しい曲である。この組曲の作詞者である百田宗治氏は、民衆詩派のひとりである。I「若しもかの星に」II「光」そしてIV「母の夢」では、彼の青春の孤独があらわれており、III「樹のぼり」VI「遠いところで子供達が歌っている」では、少年時代の素朴な心があらわれている。そういうものが、多田武彦氏のメロディーによって見事に表現されている。

ところで、多田武彦作品を多く手掛けた私たちにとって、この曲は初演である。日頃、黒人靈歌のような躍動感あふれるリズムを得意とする私たちにとって、この曲は非常に難度の高いものとなっている。はたして、どこまで百田氏の心情を表すことができるだろうか。我ながら楽しみでもあり、不安でもある。

指揮者 梶間貴志

今年の我が団の指揮者である梶間貴志、通称「とっつあん」は、ベタベタの大仏弁で周囲を圧倒してくれる。今年“春”を迎える少しはスッキリサッパリするのかと思ったら少しも変わっていない。練習中の彼は、音に対する厳しさを見ると同時に、その雰囲気を和ませるために愛嬌をふりまき、ギャグを飛ばす。ただし、そのギャグが日に日に寒くなつて行くのが気になる。さて今日のステージでは、彼の得意な豪傑さはもちろんのこと、繊細さも要求され、彼がいかに表現してくれるかが見ものである。彼は来年も指揮を続ける訳だが、今日のステージでも、道頓堀に飛び込んでしまいそうなくらいに完全燃焼してもらいたいものである。



日本のうた

男声合唱組曲「若しもかの星に」

〈若しもかの星に〉

この道

この道はいつか来た道、

ああ、さうだよ、

ほら、白い時計台だよ。

ああ、さうだよ、

この道はいつか来た道、

ああ、さうだよ、

母さんと馬車で行つたよ。

あの雲はいつか見た雲、

ああ、さうだよ、

山査子の枝も垂れてる。

からたちの花

からたちの花が咲いたよ。

白い白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいよ。

青い青い針のとげだよ。

からたちも秋は実るよ。

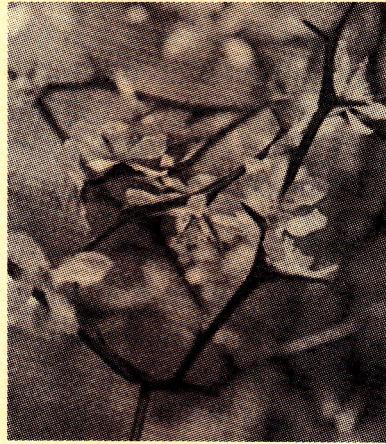
まろいまろい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。

みんなみんなやさしかつたよ。

からたちの花が咲いたよ。

白い白い花が咲いたよ。



〈光〉

自分はのぼつてゆく。
何処までもつゞく階段、
黄金の階段。

自分はのぼつてゆく、
光は遠い、
真実の太陽の光。

自分はのぼつてゆく、
何処までもつゞく階段。
光は遠い、
しかし光はそこに溢れてる。
光はそこにあふれてる。

〈遠いところで子供達が歌つてゐる〉

遠いところで子供達が歌つてゐる、
道路を越して野の向こうに、
その声は金属か何かの先端が
触れ合つてゐるやうだ。

一団になつて子供達が騒いでゐるのだ、
戦ざごつこか何かをしてゐるのだ、
追つたり、追われたり
組んだりほぐれたりして
青い草の上でふざけあつてゐるのだ。

おゝ晴れ渡つた空に呼応して、
子供達の声が私の窓にきこえてくる、
遠い世界のものゝやうにひびいてくる、
私の魂はそれに相應する、
そのひびきの一つ一つをきく、
はるかに支持し合ひ
おゝ私はその声をきいてゐる。
おゝ私はその声をきいてゐる。

3rd Stage 黒人靈歌集 (Negro Spirituals)

最後のステージは、今年も、わたしたち外語グリーが創部以来65年間歌い続けた「黒人靈歌」をお送りする。

アメリカの黒人たちの悲劇は、17世紀のオランダの奴隸船に積み込まれた、20人のアフリカ北西部の黒人に始まる。その後、大量に輸入された彼らは、奴隸市場でせりにかけられ、安価で買い取られた。そして奴隸として苛酷な環境でのもと、重労働を余儀なくされたのである。南北戦争時にリンカーン大統領によって解放されたものの、白人の黒人に対する蔑視は続き、1950年代に現れた救世主（それはマーティン・ルーサー・キングでもあり、またそれはマルコムXでもあった。）を待たなければならなかった。

さて、その黒人たちの心の支えとなつたのが、聖書＝キリスト教であった。神の前では愚者や賢者、富者や貧者の別なく、すべて平等であると解くその教えに、彼らは一筋の光を見いだしたのである。万人に対し平等に訪れる「死」、すべての苦しみからの解放である「死」に対して、彼らは肯定的に捕らえようとしたのである。その思いを、彼ら独特のリズム感に乗せたのが「黒人靈歌」である。

「黒人靈歌」はその後、世界中に広まり、ひとつの音楽ジャンルとして定着した觀もある。事実、ドウォルザークの「新世界交響曲」が黒人靈歌の影響下に作られたという説もあるほどである。この黒人靈歌の波は日本にも押し寄せ、広く知れわたるようになり、「ジェリコの戦い」「こげよマイケル」と言ったような曲が、ラジオでも多く流されるようになった。

しかし、残念なことに、この過程で「黒人靈歌」のもつべき意味が失われたような気がするのである。ここであるエピソードを紹介しよう。アメリカのプロのスピリチュアルズグループ「THE HARLEM SPIRITUAL ENSEMBLE」の来日公演があった。彼らは、パーカッションの響きに合わせ、熱演を繰り広げてくれた。観客の多くもそれに応えるべく、手拍子をたたき、体でリズムをとり、時には掛け声も上げた。もちろん演奏が終わるごとに盛大な拍手が起り、彼らもその拍手に満足そうな表情を浮かべていた、ように見えた。しかし、ある女性メンバーがある曲でソロを終えた途端、実に悲しげな表情を見せていたのである。その表情はまるで「何かが違う」ことを言いたげなようだった。これは私の勝手な解釈に過ぎないかもしれないが、彼女は恐らく、「私たちのスピリチュアルズを、そんなふうに軽々しく見てほしくない。」と思ったのではないだろうか。

では我々外語グリーの演奏はどうだろうか。彼らの心の奥底にある苦しみが表現できているだろうか。單なる音符の繰り返しである以上は、それは音楽の分野たる「黒人靈歌」であっても、本当の意味での「黒人靈歌（スピリチュアルズ）」ではない。確かに時代は変わってしまった。しかし、そんな今こそ我々が黒人靈歌の原点とは何かを真剣に問いつめるべき時が来ているように思える。——「黒人靈歌」を「ブラックピープルズソング」と呼ぼうという投書に抗して——



Negro Spirituals

Were You There

Were you there, when they crucified my Lord?
Were you there, when they nailed him to the tree?
Were you there, when they pierced him in the side?
Were you there, when they laid him in the tomb?
Sometimes it causes me to tremble.

Kum Ba Yah

Kum ba yah, my Lord, kum ba yah.
Someone's crying lord, kum ba yah.
Someone's singing lord, kum ba yah.
Someone's praying lord, kum ba yah!
O, lord kum ba yah.

Swing Low, Sweet Chariot

Oh, Swing low, sweet chariot, comin' for to carry me home.
I looked over Jordan an' what did I see.
A band of angels comin' after me.
If you git dere before I do,
Tell all my friends I'm comin' too.

I Couldn't Hear Nobody Pray

And I couldn't hear nobody pray:(O Lord!)
O Way down yonder by myself. And I couldn't hear nobody pray.
In the valley !On the knees! With my burden! And my Saviour!
Chilly waters!In the Jordan!Crossing Over!Into Canaan!
Hallelujah!Troubles over!In the kingdom!With my Jesus!
A couldn't hear nobody pray.

Wade In De Water

Wade in de water, wade in de water, children,
God's gonna trouble de water. See dut ban' all dressed in red.
Look like a ban'dat Pharaou led. See dut ban' all dressed in white,
Look like a ban' of Israelites.
Wade in de water, wade in de water, children.
God's gonna trouble de water.

We belong to



後列左より、田中、山口、大木、松波、三森、梶間、

前列左より、下社、林、林先生、福田

田中 透 (Baritone・R5)

250ccのバイクを操り、男もうらやむようなスタイルと甘いマスクをもちながらも、この5年間浮いた話のひとつもなかった所を見ると、やはり「デラ〇っぴん」の紙人形師として長年にわたって暗躍していたのが災いしたのであろうか。ただひそかに意中の女性に接近中のうわさもあるらしく、来春からは某H技研工業の名刺を利用（悪用？）しつつ、精出してくれことだろう。

山口 壮 (Bass・D5)

今春、寮を追い出され、新天地である外院に引っ越して来た彼は、部内で一番きちょうめんである。まだだれも、彼の部屋が乱れていたところを見たものはいない。最近、近隣に住む後輩との交流が盛んなようだが、それは自分の豊富な経験を生かし「史上最大の作戦」をバックアップするためらしい。

大木 周 (Second Tenor・E2)

渉外になった今年も、数多くの伝説を作り上げた。7月の「七夕コンパ」では、ついに救急車のお出迎えを受けた。病院で気が付いた彼は、いつもと変わらず、先輩に向かって不機嫌な顔をしていた。そんな彼も突然思春期を迎え、某嬢にアタックをかけるべく、史上最大の作戦を考案中。先輩たちも応援すべく、今日もまた、彼に酒をしこたま飲ませるのであった。

松波大介 (Second Tenor・R1)

松波大介18歳。グリークラブ期待のルーキーだ。彼は富田林から箕面まで、毎日片道2時間もかけて通学している。大阪出身というイメージに反して、一人理性派を装っているが眞実のほどは不明。酒を飲めない（法律上ではなく）のがその一因だ。今日はアルコール漬けにして化けの皮をはがしてやろう。覚悟せよ！かくのごとく彼については不明な点が多い。が、モスクワ放送を聞くのが趣味というあたり、アブナイ面が垣間見られたりする。

三森良太 (Bass・S1)

オレが
オレのすべて！

(石川県出身)

GLEE CLUB

梶間貴志 (Baritone・K3)

ある時はH急電車のプラットホームアシスタント、ある時は家庭教師、ある時はグリーの指揮者、ある時は馬券の購入術指南、そしてまたある時は鍋奉行……となかなかに多忙な毎日を送っている。スケジュール帳はいったいどうなっているのと思うほどだが、あの大きな図体、大きな声、コテコテの大坂弁で乗り切っているようである。そして、忘れてはならないのがかわいい彼女の存在！仲良く手をつないで歩いている姿はなかなかほほえましい。ねえ、今日彼女と何分電話ではなしたの？

下社 学 (Top Tenor・M7)

【RP=大阪】

10日のウランバートル放送によると、3年前日本から姿を消した下社学氏が、11日の箕面での大阪外大グリークラブの定演に出演し、久しぶりに公式の場に姿を現すことが判明した。部員の話では、彼は練習にはしばしば姿を見せていたらし。その時の彼は、常に顔に厳しい表情を携えているため、「何か自分は練習でまずいことをしたのではないか」と部員はよく心配したものであり、また、その表情がなにかの拍子で崩れたときに出る冗談に部員はよく驚かされた、という。

林 一範 (Top Tenor・K4)

代々続く朝鮮語科の濃い伝統から自分は外れている、と信じているらしいが、だれもそう思っていない。野球はドラゴンズ、サッカーはグランパス、好物は鶏ときしめんという彼の「名古屋パワー」は、同語科K氏の「なにわパワー」に唯一対抗できる。また、かっての異名「ボンバー」の形跡を隠すことに懸命だが、その名残としてボソッと現れる、鋭い一言や大きなため息で部員を脅かす。こうして今日も彼は部費の取り立てにやってくる。

福田裕之 (Baritone・A4)

彼は早口で有名だが、なぜか一語一句が実に聞き取りやすい。標準語発音のスペシャリストである。また、彼の笑い声は隣の部屋にいても高らかに響いてくる。飲み会での彼は結構H.I.なのだが、「いや、僕は飲んでいますよ」とかいって、人には飲ますが自分は飲まない。この点、在学OBのM川氏の後を受け継いでいる。部屋に戸田菜穂のポスターをでかでかとはってあるが、プライベートの女性関係も頑張ってほしいものである。

Farewell Messages

これほど充実したときを過ごせたのも、外大グリーに入り、よい仲間に出会い、歌を歌い、酒を飲んだために違いない。みんな、本当にありがとう。

福田 裕之

先輩達の歌声に圧倒されていた
18才の頃。あれから時が経って、本当にいい経験をしたと思います。
とはいって、僕などまだまだヒヨック。ここでの経験をステップにしてこれからも生きていきます。それにもあっていう間だったなあ。

林 一範

宴会・コンパにひと役買います!!

大 関 屋

中川忠三

大阪市北区曾根崎2丁目13番1号
TEL 314-1991

16時より営業
(只今アルバイト募集中)

合唱団の夏合宿に…

関西随一の雪質・ハチ北スキー場 当館は第一リフトが真正面に見えます
冬のスキー旅館としてご利用下さい
アルバイト、居候募集中!

国立公園ノハチ北高原

みはらじや

〒667-12 兵庫県美方郡村岡町大笛

☎ (07969)-6-0739・0604



産地直送の味覚が店内

いっぱい

北海道料理

毛ガニ・ししゃも・北寄貝・つぶ貝・鱈・
ほっけ・さんき鰯・グリンアスパラ
コーン・ポテトなど……。



おたる
小樽

本店 箕面市役所前
(0727) 23-4462

船場店 箕面市民病院前
(0727) 28-6411

三森良太

さすらいの

ものぐさ太郎に愛の手を
('93 赤い糸共同募金)



松波大介

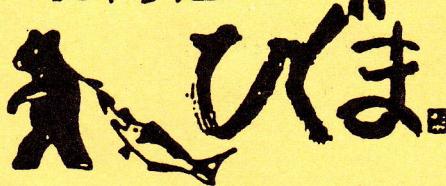
『新共産党宣言』

執筆中につき禁欲中。



本場サッポロがここにある!!

北海道ラーメン



オフロードバイクチーム Brown Bear 併設(入部受付中)

麺は北海道より毎日空輸
ラーメンの数は50種類!!

このパンフレットを御持参の方には
餃子1人前をサービス致します

箕面市西小路5-5-5(箕面市役所南側)

11:30~14:00, 17:00~深夜2:00

水曜日定休

☎ (0727) 23-1718

カット & パーマ

理容 浅井

箕面市栗生間谷東5丁目19-6

TEL (0727) 29-8091

厳選した素材を生かした確かな味



北千里駅前8番館B1

北千里店
☎ 06(834) 4210

池田市石橋1-1-11

石橋店
☎ 0727(62) 1785

山田道教プロデュース・アルバム第2弾!!

『冬と君と僕』

— 君のぬくもりを感じながら
冬の街を歩きたい

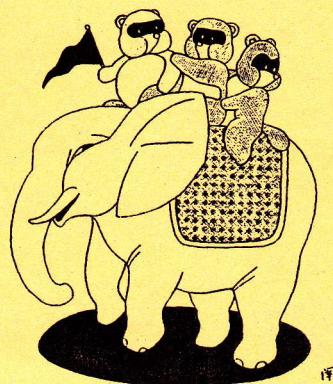
'93.12.15 on sale
[CD] ¥3500 [MT] ¥300 [DAT] ¥700

1st アルバム『やくそく』再発決定!
お問合せ: 0727-27-1132 (山田)

印刷はむつかしい…と
決めつけていませんか?

デザインから印刷まで、一貫したシステムで
取り組むムーゼンからの価値ある提案です。

工房 ムーゼン
箕面市桜井1-1-3 イタハラビル2F
尼信隣り 電話<0727>22-9795



STAFF & MEMBERS

顧問 高田博行 ドイツ語学科助教授
ヴォイス・トレイナー 林 誠 大阪音楽大学教授

部長 福田裕之 涉外 大木 周
指揮 梶間貴志 会計 林 一範

《Top Tenor》

下社 学 (M7・西春・愛知) 林 一範 (K4・横須賀・愛知)

《Second Tenor》

大木 周 (E2・春日丘・大阪) 松波大介 (地・昼／R1・生野・大阪)

《Baritone》

田中 透 (R5・高島・滋賀) 福田裕之(A4・東京大学教育学部付属・東京)

梶間貴志 (K3・大手前・大阪)

《Bass》

山口 壮 (D5・津西・三重) 三森良太 (地・夜／S1・金沢二水・石川)

A : アラビア語 D : ドイツ語 E : 英語 K : 朝鮮語 M : モンゴル語

R : ロシア語 S : イスパニア語 地 : 地域文化学科 昼 : 昼間主コース

夜 : 夜間主コース

編集後記

演奏会はその場限りのものですが、パンフレットは演奏会終了後も、形として残ります。誰かが、このパンフレットを手にするたびに、第37回定期演奏会を思い出し、逆に、第37回定期演奏会を思い出すたびに、このパンフレットをも思いだす、というふうになれば幸いです。

最後に、製作に当たり、原稿をお寄せいただきました先生方、広告の掲載を引き受けてくださいました広告主の皆様に、厚く御礼申し上げます。

~~~~~大阪外国语大学グリークラブ第37回定期演奏会パンフレット~~~~~

発行 平成5年12月11日

編集 福田裕之

広告 大木 周

イラスト 関 弘司

印刷 工房ムーゼン